

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年12月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4078000082
法人名	有限会社 まんてん
事業所名	有限会社 まんてん
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市三 町草場33-1 (電 話) 0942-64-5401

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 20年 10月 10日	評価確定日	平成 21年 1月 27日

## 【情報提供票より】(平成 20年 9月 23日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算	7.0人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋造り	
	1 階建て	1 階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷 金	○ 有( 120,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要(平成 20年 9月 23日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	(認定中) 1 名		
年齢	平均 84 歳	最低 55 歳	最高 96 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤吉内科医院 毛利歯科
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周辺は昔からの静かな住宅地となっており、ホームは周囲の雰囲気寄り添うように違和感なく溶け込んで存在している。開設してから6年目に入り、近所の高齢者が気軽にホームへ差し入れを持って来られるなど、地域に根ざしたホームとなっている。前施設長が“一人ひとりを大切に 優しい笑顔と温かい心で 人に優しく 自分に厳しく”という理念を掲げ、平成16年に“グループホームまんてん”を開設した。平成19年10月に施設長(前施設長の息子氏へ)の交代があったが、ホームの方針に変わりはなく「今後は地域への恩返しをしたい」と施設長を始め職員一同の思いのもと、施設長自ら率先して地域の清掃活動に参加したり、運営推進会議を通して地域の方へホームの様子を伝える等、今できることから地域への貢献活動に取り組まれている。前施設長も相談役として、温かくホームの運営を見守っている。今後は地域のグループホームと連携を図り、相互研修や連携を取りながら、地域全体のグループホームのケアの向上への取り組みを始めたいと施設長は考えている。職員は、日々、ご利用者の生活歴を活かし、植木の手入れや、ホームの菜園の手入れ、洗濯物干しなどに取り組んでいただいている。職員とご利用者が一緒に活動することで、ご利用者の得意なことを把握し、取り組める環境を整え支援している。この2年間、職員の離職はなく、職員が負担なく働きやすい環境が保たれており、チームワークも抜群に良いホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価を踏まえ、①職員への人権教育の実施②久留米市グループホーム連絡会に入会してのグループホーム間の交流の実施③職員全員での自己評価の実施に取り組んだ。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 施設長や管理者は、自己評価を行うことで日々のケアの取り組みを振り返ることができ、職員一人ひとりのケアの向上につながることを伝え、各項目について職員全員で話し合いを行い、施設長がまとめ上げた。前回の評価についても職員全員で話し合いを持ちながら改善計画書を作成し、一年をかけて改善に取り組んだ。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 区長・老人会長・民生委員・市担当者・地域包括支援センター職員・家族代表の方に参加していただいている。会議の中では、ホームの防災についての検討や外部評価の報告等を行い、ホーム運営の改善について話し合い取り組んできた。会議の中で、喫煙されるご利用者の受け入れについて助言を頂く等、参加者からはホーム運営について具体的な助言を頂き、ホーム運営の改善に反映している。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 2ヶ月に1回、担当職員がご利用者の生活状況・健康状態などを手紙に書き、ご家族へ送付し報告している。ご家族訪問時には職員が日々のご様子や健康状態などを口頭でお伝えし、ホームやご利用者のケアについて希望や意見はないか聞くようになっている。遠方で面会の少ないご家族には担当職員が電話で報告を行い、ホームに対する希望や要望がないか聞き取りを行っている。ホームの玄関横に要望意見箱を設置しており、家族会の中でご家族から意見を頂くこともある。ご家族から意見を頂いた時は職員全員で検討し、運営に反映させている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ご利用者と職員が地域の祭りへ参加することが定着し、施設長が率先して地域の清掃活動に参加する等、地域活動に積極的に取り組まれている。近隣の高齢者がホームへ差し入れを持って顔を見せに來られたり、ホームの行事に地域の婦人会やどこもたちが歌や舞踊を披露される等、地域の方との交流が行われている。今後ご利用者の地域の老人会への加入を希望しており、現在老人会長へ相談しているところである。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成15年のグループホーム開設時、前施設長には“地域の中で人間らしさを失わずに人間らしく生きられる生活の場を作りたい”との思いがあり、“一人ひとりを大切に 優しい笑顔と温かい心で 人に優しく自分に厳しく”という言葉を施設長が独自に考え、理念として掲げた。地域に根ざしたサービスといった内容は理念の文言の中に明示されていないが、パンフレットの文章やホーム内の掲示物には地域との交流を大切にしたいという思いが表現されており、理念に通じている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設長は1ヶ月に1回のミーティングの中で、ケアの中で気付いた職員の言動や理念について話をする時間を設けて伝えている。また、管理者が日々のケアの中で気付いたことを職員へ直接伝えるようにしており、職員全員がご利用者の気持ちに寄り添い、ご本人の思いを大切にケアが実践できるように働きかけている。職員とご利用者が日常会話を楽しみながら職員が自然に介助を行う場面がホームの日常的な風景として見られ、日ごろから理念の実践に取り組まれている様子が伺える。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ご利用者と職員が地域の祭りへ参加することが定着し、施設長が率先して地域の清掃活動に参加する等、地域活動に積極的に取り組まれている。近隣の高齢者がホームへ差し入れを持って顔を見せに來られたり、ホームの行事に地域の婦人会や子ども達が歌や舞踊を披露される等、地域の方との交流が行われている。今後ご利用者の地域の老人会への加入を希望しており、現在老人会長へ相談しているところである。	○	施設長には「今後は地域へ恩返しをしていきたい」との思いがあり、地域の清掃活動への参加等地域行事への参加だけではなく、グループホームや地域福祉についての説明会をホームが主催して行うことで、将来はホームが地域高齢者の相談窓口となれたらと考えている。また、ご利用者の老人会への加入を実現し、ご利用者と地域の交流を深めていきたいと考えている。今後の取り組みに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長や管理者は、自己評価を行うことで日々のケアの取り組みを振り返ることができ、職員一人ひとりのケアの向上につながることを伝え、各項目について職員全員で話し合いを行い、施設長がまとめ上げた。前回の評価についても職員全員で話し合いを持ちながら改善計画書を作成し一年をかけて改善に取り組んできた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年から3か月に1回、運営推進会議を行っており、区長・老人会長・民生委員・市担当者・地域包括支援センター職員・家族代表の方に参加していただいている。会議の中では、ホームの防災についての検討や外部評価の報告等を行い、ホーム運営の改善について話し合い取り組んできた。会議の中で、喫煙されるご利用者の受け入れについての助言を頂く等、参加者からはホーム運営について具体的な助言を頂き、ホーム運営の改善に反映している。	○	現在ご利用者の参加が出来ていない状況である。ご利用者が運営推進会議に参加し自らの声を伝えることで、参加者がホーム運営について理解を深め、会議がより具体的な改善に取り組む場となるよう、今後の取り組みに期待していきたい。まずは、茶話会形式から参加していき、少しでも、ご利用者の方と参加者の方が、楽しく会話ができるように取り組んでみることはいかがだろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長は、運営推進会議以外に1ヶ月に1. 2回は市の窓口を訪問し、担当者にホームの運営でわからないことを相談したり、ホーム職員が参加できる研修の情報提供を受けている。市担当者は施設長の窓口訪問時の対応や運営推進会議への参加だけでなく、随時ホームにメールで研修の情報を送る等の協力も頂いており、連携が保たれている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設長が、外部の研修を受講し、内部研修を通して職員全員に説明を行い周知を図っている。必要と思われる利用者については説明を行ったが、全ご利用者・ご家族には説明を行っていない。次回の家族会で説明を行う予定であり、必要なお利用者については活用につながるよう、支援を行うようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回、担当職員がご利用者の生活状況・健康状態などを手紙に書き、ご家族へ送付し報告している。また、ご家族訪問時に、職員が日々のご様子や健康状態等を口頭でお伝えしている。ご利用者が高齢化していることもあり、健康状態については細かい報告に努めて、日々のケアについてご家族からも意見を頂けるよう働きかけている。遠方で面会の少ないご家族には担当職員が電話で報告を行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関横に要望意見箱を設置しており、ご家族が意見を伝えやすい環境を作っている。施設長・管理者や職員は、ご家族の訪問時や電話連絡の時に、ホームやご利用者のケアについて希望や意見はないか聞くようにしている。家族会の中でご家族から意見を頂くこともあり、ご家族から意見を頂いた時は職員全員で検討し、運営に反映させている。ご家族の声がホーム運営に反映される環境が保たれている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長は、職員の休みの希望を聞いて調整を行ったり、2ヶ月に1回、前施設長も参加しての食事会を行い、職員の親睦を深める場を設ける等、職員が仕事を続けやすい環境を保つ取り組みを行っている。管理者は職員の相談窓口となり、日頃の小さな悩みにも個別に対応している。この2年間、職員の離職はなく、職員が負担なく働きやすい環境が保たれている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	施設長は、職員の採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除することなく、採用を行っている。ホーム運営の中で個々の職員の個性を尊重しながら、農作業が得意な職員にはホームの菜園作りに取り組んでもらったり、舞踊が得意な職員にはホームの行事の時に疲労してもらおう等、個々の職員の力を發揮してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設長や管理者は、日々のケアの中の職員の言動で気付いたことは、その場で直接職員に伝えるようにしている。職員には同和問題についての研修を受講してもらい、ホーム内で伝達研修も行っている。施設長は、月に1回のミーティング時に理念と合わせて、ご利用者の人権について職員に話し、職員同士で考える場を設けている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月研修のテーマを決め、月に1回のミーティングに合わせて内部研修を行ったり、施設長や管理者が外部研修に参加した時は、ホーム内で伝達研修を行っている。施設長は内部研修だけでは、得られる知識に限りがあると考えており、職員にも外部研修に参加してほしいと考えているが、職員からの自主的な申し出がなく、職員の外部研修の参加には至っていない。また、個々の職員の育成計画の作成は行っていない。	○	各職員の学習意欲はあるが、外部研修への参加には至っていない状況。施設長は、今後は、あらかじめ外部研修の予定を把握しておき、職員全員が年に1回は外部研修に参加できるようにしたいと考えている。今後の取り組みに期待したい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長や管理者はグループホーム協議会の勉強会に参加しており、勉強会を通じて他施設の職員との交流を図ったり情報交換を行っている。現在、施設長は管理者間での施設の相互訪問や交流会に参加しているが、職員を主とした交流が行えず、十分な交流が出来ているとは考えていない。	○	施設長は、今後は近隣のホームとの職員間の交流や相互見学等を行いたいと考えている。職員同士の交流が広がり、意見交換を行っていくなかで、お互いの質の向上につながっていくことを期待していきたい。
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設長や管理者が、入居の相談を受けた後、自宅を訪問している。ホームでの生活に馴染めるよう、ご本人とご家族に何度かホームに来ていただき、徐々に慣れていただけるように工夫している。入居後は、ご本人の希望に合わせて個別にお墓参りに出掛ける等、ご利用者のペースに合わせてホームの生活に徐々に馴染めるように働きかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者から野菜の作り方や漬物の作り方を習う等、日々の活動の中でご利用者の得意分野でその力を発揮して頂く機会を作るようにしている。職員は昔の行事やいわれ・方言を覚えてもらうこともあり、職員もわからないことはご利用者に尋ねることもあり、日常生活の中でご利用者から学びを頂くことが多い。お互いに思いやり支えあう関係が築かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご利用者ご家族から、どのようにホームで暮らしていきたいか希望や意向を聞き取り、入居後もご家族の訪問時に話す機会を設け聞き取るようにしている。日々の活動を通して、ご本人が興味を示されるものはなにか、ご本人のご希望に沿った支援が来ているかを確認し、言葉での表現が難しい方には、表情や行動からご本人の気持ちを汲み取る努力を行い、ご家族に尋ねながらご家族と一緒に考えていく取り組みを行っている。	○	施設長はご利用者の意向の把握は、まだ不十分と考えている。特に言葉での表現が難しい方については、今後もご家族と一緒に考えていきたいと思っている。生活歴やご希望など、ご本人本位で検討していける機会が増えていくことを、今後も期待していきたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の会議の中で担当職員を中心に職員間で情報を出し計画について話し合い、その内容を計画作成担当者がまとめている。ご利用者の意向は日々の活動で職員と話をすることで職員が汲み取り、ご家族の面会時や電話連絡時にご家族へ伝え、ご家族と一緒にプランを考える取り組みを行っている。課題・目標には地域で暮らすという視点に盛り込まれているが、日々行っているケアのすべてが反映されたものにはなっていない。	○	日頃、実際に行っているケアの内容をプランに明示することで、より充実したケアの提供が出来ると考えられる。個別援助計画を作成していくことで、ケアの標準化につながることもなるため、今後、少しずつでも他のケア内容の記載をしていかれてはどうか。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回のミーティングの中で、全ご利用者のプランの見直しを職員全員で行っており、必要時は計画の変更を行っている。日々のケアの中でご利用者のご様子やご利用者から希望がないかを観察し、ご家族に報告・提案しながら、随時その時のご利用者の状態に応じた計画の変更に取り組んでいる。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行きつけの美容院への送迎や通院の介助・馴染みの店への外出支援や葬式やお墓参りへ職員が同行し介助を行う等、個々の希望に応じた柔軟な対応を行っている。また地域の通所事業所がホーム近辺へ外出に来た時は、ホームの車椅子を貸し出す等、近隣の事業所との協力連携も図っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族に主治医をお選びいただけることを説明しているが、全体的にご利用者がホームの協力医療機関へ主治医を変更されている。受診時には職員が受診に付き添い、医師への報告を行っている。体調の変容があった時は、ホームの看護師が主治医へ電話で相談し指示を頂く等、疾患の早期発見・早期治療につながるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時から終末期の方針について、ご家族・ご利用者へ意向を確認しており、ご家族の面会時や家族会の後等に個別に話す機会を設け、ご家族に方向性を選んでいただく取り組みを続けている。これまでにホームで看取りを行ったことはないが、内部研修でホームの看護師が医療面の研修を行う等、ご本人やご家族の意向に沿ってターミナルケアが行える体制は整えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者をお呼びする時は、入居時にご利用者とご家族に確認し姓でお呼びするようにしている。姓でお呼びしても反応されない方にはご家族へ事前に了解をいただき、名前や馴染みの呼び方で対応している。日々のケアの中でもご利用者の気持ちに沿いながら、個々のプライバシーや自尊心を損ねないようにさりげなく声かけしたり、耳で優しく声かけするようにしている。個人情報書類やメモを処分する時はシュレッダーにかける等、個人情報の管理には十分気を付けている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム一日の流れはあるが、食事・入浴・起床時間など1人ひとりのペースに合わせて対応している。毎朝ご利用者のその日の気分を確認し、一日をどのように過ごすかをご利用者に決めていただくようにしている。日光浴や散歩・買い物など希望を聞き、ご利用者の気分が乗らない時には無理強いはいしていない。外出やレクリエーション活動への参加が難しいご利用者には、ホーム内での活動に職員と取り組むことで、日々楽しみのある生活となるように支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の嗜好や栄養面を考慮しながら、職員が話し合いメニューを決めているが、個々のご利用者の嫌いな食材や献立がある時は、別の料理を作って対応する等柔軟な対応を行っている。また、ご利用者は、体調や能力に応じて調理の下ごしらえやテーブル拭き等、出来ることに取り組んでいる。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の午後に入浴を行っているが、希望があれば毎日の入浴にも対応している。入浴を拒否されたり同性の介助を好まれるご利用者については、個別に対応を行っている。ご利用者毎に入浴剤を選んでいただく等入浴を楽しめる工夫も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の生活歴を活かし、植木の手入れや、ホームの菜園の手入れ、洗濯物干しや収納に取り組んでいただいている。職員とご利用者が一緒に活動することで、ご利用者の得意なことを把握し、取り組める環境を整え支援している。月に1回の買い物外出やご利用者の希望に応じたドライブも行っている。	○	職員は、ご利用者と一緒に活動している最中に、職員が手を出しすぎている時があると感じている。今後は、もっと掃除や料理と一緒に取り組むことで、もっとご利用者の力が発揮できる場面を作ることができると考えている。ご利用者の秘めている力にも目を向け、ご利用者が生き生きと活動できる場が増えていくことを期待したい。
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者の希望や体調に応じてホーム周辺を散歩したり、買い物に出かけたりしているが、ご利用者の希望に応じた個別の外出支援は、まだまだ十分に出来ていないと、施設長は考えている。ご利用者やご家族から外出の希望を聞く努力をしているが、現在は情報収集の途中の段階である。	○	施設長は、引き続き情報収集に努め、ご利用者の行きつけの店への外出等、個々のご利用者の希望に応じた外出を増やせたらと考えている。ご利用者の、更なる楽しみが増えていくことを期待していきたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜7時から朝7時30分までは防犯上鍵をかけるが、敷地へは自由に入ることができるようになっており、玄関や裏口も日中は施錠していない。一人で外出しようとするご利用者はおられるが、落ち着かれなくなられる時間帯や傾向をあらかじめ把握しており、職員があらかじめ配慮することで、予防できている。近所の方々にご利用者一人での外出の見守り・連絡の協力依頼も行っており、実際に見守りも行われている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に一回避難訓練を実施しており、今年は区長にも参加していただく予定である。隣家の敷地をホームの第一避難場所として提供いただいている。災害時の近隣の協力も依頼している。現在は日中の災害を想定しての訓練のみ行っており、今後は夜間の災害を想定しての訓練にも取り組みたいと考えている。備蓄については、毛布や懐中電灯等は準備しているが、災害時の食料の準備はまだ行っていない。	○	施設長は、夜間の災害を想定した避難訓練・食糧の備蓄準備とともに、避難訓練に、区長だけではなく近隣住民にも参加頂いて実際の災害に備えたいと考えている。災害時の対策が、今後も更に充実していくことを期待していきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日30品目を目標に野菜を中心に使った献立を、ご利用者の希望を踏まえながら毎月職員で話し合い考えており、ホームの看護師が献立を確認し栄養面の助言を行っている。主治医より個々のご利用者の一日のカロリーの指示を受けており、ご利用者毎の咀嚼・嚥下力に応じて食事形態を変える等の工夫も行っている。日々のご利用者の食事量や水分摂取量を把握しており、摂取量が少ないご利用者については、好みの食物が献立に反映されることで摂取量が増えるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの一角の畳の間には掘りごたつがあり、冬にはご利用者が団らんを楽しむ場となっており、畳が気持ちよい空間を作り出している。建物全体は採光を取り入れ、植木や職員とご利用者で作った作品がいたるところに飾られており、落ち着いた中にも温かな雰囲気が感じられる。ご利用者にとって不快な音もなく、光の強さにも気配りがなされている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者がホームで居心地良く過ごしていただけるよう、ご利用者やご家族と相談して自宅で使用していた家具や使い慣れた物を持ってきていただいている。居室にはご家族の写真や絵等と合わせて、ご利用者が職員と一緒に作った手作りの作品が飾られている。家具等持ち込みの少ない方には、ご利用者と職員で手作りの作品を作り、一緒に飾る等、ご利用者が居心地良く過ごせるよう環境づくりに工夫している。		